

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.73



この作品は、人権のまちづくり国東部会の人権作文に応募された国東市立大恩小学校六年（現在国東市立国東中学校一年生）の清國 真央さんの作品です。

「小さな親切」

大恩小学校六年 清國 真央

私は毎日、友達や同じ学年の人、年が下の人、そして地域の人たちから、「おはよう」や「こんにちは」や「さようなら」など、色々なあいさつを受けています。友達は、「おっはよー。」

と、とても元気な声で言ってくれます。だから、私も元気に、「おはよー。」

と返しています。同じ学年の人も友達と一緒にのあいさつの言い方で、とっても明るいんです。年が下の人は、ちよつとえんりよが

ちなのか、少しおとなしい、「おはよっ。」

です。それでも私は、「おはよっ。」

と元気に返すようにしています。そして、地域の人

が小さい時や、一言言葉を付け加えてくれる時があります。私があいさつをして、地域の人の声小さかった時あまり聞こえなけれど、自分の言った言葉に、返事をして。そして、うれしい気持ちになる時があります。地域の人は、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」のあいさつの他にも、「気をつけて行っちょいで。」とか、「がんばっちょいでー。」など色々な言葉を付け加えてくれて、それを聞いた時は、私も、「今日、がんばろう」と思う時があります。

私は地域の人のあいさつは、友達や同じ学年、年が下の人とはちがう気持ちよさがあって、地域の人たちにあいさつをするとか、温かいあいさつが返ってきます。友達とも明るかったり、ちよつぴりおとなしいあいさつが返ってきます。私は、「元氣なあいさつとおとなしいあいさつはどっちがいい？」と言われたら、きつと、「どっちも。」と答えると思います。

なぜかと言うと、元氣なあいさつをしてくれる人もおとなしくあいさつをしてくれる人も、私にあいさつをしようと思ってくれていることに変わりはないうれしいことだからです。



「第5回国東市隣保館まつり」

「ママの川柳」応募作品

子を思う親の気持ちに無頓着

安岐町 浅井 幸一

君の声その一言で変わったよ

武蔵町 徳丸 竜也



私は、「人を明るくしたり、温かくしたりするあいさつはとてもすばらしい親切なんじゃないかなあ」と思います。そして、私は、これからも明るいあいさつ、温かいあいさつを言える人でありたいです。さあみなさんもとなりにいる人から、小さな親切をはじめてみませんか。

お知らせ

☆同和問題学習会（隣保館）

6月21日（木）午後2時

問い合わせ 国東市隣保館

☎0978-68-1722